

躍動する！

紀州人

の

DNA

- 先見性
- 地域貢献
- 発想力
- 実行力

天衣無縫の在野学者 今に受け継がれる 南方熊楠の発想力

昭和四年、在野の学者・南方熊楠は、和歌山・田辺湾に停泊した船上で昭和天皇にご進講した。そのとき、ご自身も粘菌の研究をされていた陛下に、粘菌の標本をキャラメルの箱十一個に入れて献上する。研究者同士が標本を渡すやり方で…。

昭和天皇は後にこう語られたという。「普通、献上という桐の箱か

何かなのだが、南方はキャラメルのボール箱に入れてきてね…」。

形式にこだわらない自由な発想と先見性、海外にまで雄飛する実行力、私財を投じてエゴロジーに取り組む地域貢献の心。熊楠は陸奥宗光、華岡青洲、濱口梧陵らとともに、時代を動かし、歴史に大きな足跡を残した。紀州が誇る偉人と、そのDNAを受け継いだ現代の紀州人の姿をお伝えする。

